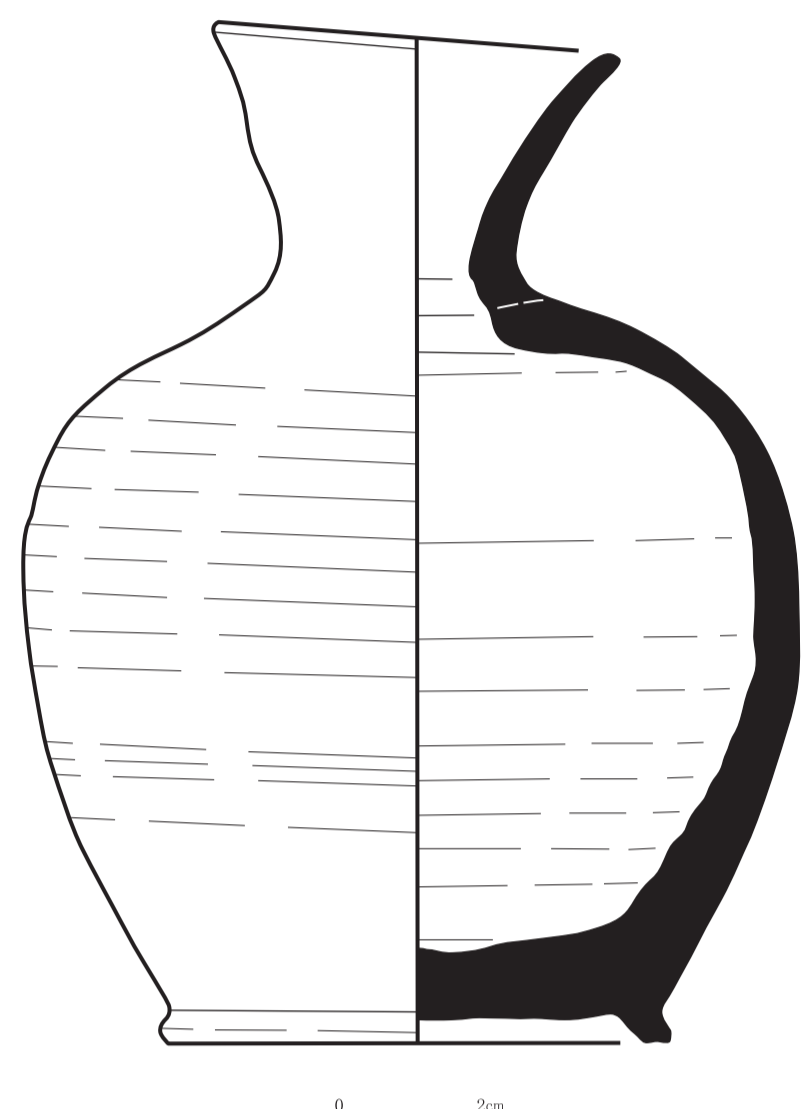


謎の注記 「FUKUSHŌJI」

須恵器 長頸瓶



遺物実測図



底面の注記とヘラ記号

遺物写真

資料の概要

■資料名：須恵器 長頸瓶

■所属時期：平安時代

■出土地：HUKUSHŌJI

■出土年月日：昭和27年(1952)12月27日

当館収蔵の考古資料には、主に3つの方法で資料情報が記されています。

一つは、遺物収納袋に記された情報。多くはマジックで書かれていますが、赤色マジックで書かれたものは紫外線で退色してしまったものが多く、読み取れない場合があります。

二つ目は、遺物収納袋内のカードに記された情報。当館収蔵品の場合、遺跡名や出土年月日だけでなく、発見者や出土状況など詳細情報が記されたものも散見されます。

以上の2つの情報は、多少の問題もかかえています。それは、「袋とカードの情報が、必ずしも遺物と一致しないこと」です。当館に収蔵されている構内遺跡以外の考古資料は、本学にもたらされて半世紀以上が経過したものが大多数です。この間、多くの方が資料整理や資料調査を手がけたようで、多くの「収納間違い」が生じています。つまり、「資料を出した袋に、きちんと戻していない」のです。そこのあなた、日常生活で身に覚えがありませんか？

資料情報を確実に保持させる方法は、やはり遺物自体に直接注記すること。このような資料に関しては、私達も出土遺跡名や出土年月日を信頼することができます。

しかし…。当館収蔵品の中には困った注記を持つものも存在します。それがこの資料。土器の底面に明確な字体で年月日とともに「HUKUSHŌJI」と書かれています。「ふくじょうじ」…。お寺の名前なののでしょうか。地名なののでしょうか。そもそもなぜローマ字で??

資料自体は、9世紀以降の須恵器長頸瓶と見られ、胎土は精緻、焼成も堅緻。手慣れたつくりで、山口県産としては異質に感じます。県外資料の可能性もあります。

出土地の候補としては、萩市椿において9世紀代の遺物が出土し、江戸時代の寺院「福昌寺」境内を含む「椿遺跡」が挙げられますが、根拠が薄弱。みなさま、情報をお良さ下さい！